古今 茶道全書 禮

巻 三

數寄屋ニ玉形ノ[illegible]アリ 露地腰懸莊リ[illegible]石
[illegible]戸ヨリ[illegible]戸下寸法[illegible]
[illegible] 堂古自在[illegible]宗匠ニヨリ
[illegible]寸法[illegible]水桶并柄杓。其臺子。[illegible]棚。[illegible]
長板小板[illegible]自在[illegible]懸[illegible]
[illegible]風[illegible]小板。風爐先屏風[illegible]屏風。
[illegible]竹箸。茶巾。[illegible]
[illegible]長火箸。炉火箸。風炉火箸。灰匙并小灰
[illegible]鐶。片口。柄杓。茶筅。炭斗[illegible]
臺子[illegible]花入。[illegible] 東山殿時代[illegible] 水指。真ノ手桶。
囲炉裏五徳。[illegible]宗匠流[illegible]。柏子木。銅鑼
并[illegible]。石灯籠[illegible] 大田[illegible]
右寸法秘書ノ[illegible]書ス

463

寸尺

数寄屋方諸事寸法秘事

付り 茶乃湯小道具之寸法

一 数寄屋南乃軒のたかさ敷居乃上よりもみちかけ迄四尺四寸たかくもひくくも但しのきのたるきのふとさ二寸四分又ハ五分

一 脇ひさしの軒のたかさ四尺八寸

一 二枚せうじ乃上けたのたかさ七尺九寸五分

一 ちひ称の座敷ハ二枚しやうじのけた乃中ほどよりちひの中墨まで四尺四寸六分同じ也のつきさ二枚しやうじ此家のたけより四尺也

一 臺目乃軒のたかさ七尺二寸

一二枚しやうじ冠の内のり又尺八三寸内鴨居乃ちうど二寸
六分あつさ九分宛ミぞ六分かゝせ三分同じくいの字座輪
ちうど二寸七分厚さ内にて八分外にて九分宛ミぞ壱寸
一掛代口のたかさ又尺八二寸五分ちうど弐尺かもゐ乃ちうど弐寸
八分厚さ九分宛ミぞりハ三分宛ミぞ六分竹乃かゝり五節
あひ下ハ七寸六分上ハ四寸七分節乃数又ハせうじの
子の数たてハ二本よこ十三本
一火燈口かもゐのたかさ三尺八寸よこ内のはゞ壱尺九寸三分
但しかまちての ちうど壱寸七分厚さ九分同じくいのちうど壱寸
七分厚さ九分宛ミぞ三分
一同かもゐミぞ六分しやうじ乃子の数よこ九本あり

さかり弐分ちかくかくしの板ちうどハ七寸内上壱寸のこし
上かく四寸五分ハちくれ板をしらべさらりとかく
ずりうら九分さしかけてくりかゝミすゝ也鴨居乃
下又五分さかるも
一床乃ちうど四尺同かまち弐尺八四寸是ハ畳ある床乃中ちうの
かまち二寸六分厚さ壱寸五分柱のまへのちうど六分
一同天井のたかさ座敷の下端よりも七尺二寸座敷のふと
さ壱寸三分又ハ四分但七尺三寸六分のも昔ハ有たる事也
一同かけと床かまちのはゞ四尺八寸柱ハ面こと地数寄
次第昔日伏見ゆく堂別床柱ハ杉乃角され此まに
てとめり桐杉柱ハ栗豆枯実され利休ハ赤松乃皮付

より桐未ハさま〳〵角又古田氏乃床柱事変大よし扣
未ハ深山乃まゝの松乃皮ついてそのまゝ小枝など付

一床の内ハ地窓古田氏ハ地敷居より三尺二寸又壱三寸よ壱
又壱列ハ地敷居より弐尺七寸上て有窓乃大さ長さ
壱尺六寸又分幅壱尺弐寸利休地敷居より弐尺九寸又分
上より有長壱尺七寸又分幅壱尺弐寸又分

一床掛物かけ九くぎ丸分四角にして先壱分四方に出ハ
弐分四方皮より方そとへすぐるくぎ出すかはりまざ竹
付る竹釘也

一掛花生九釘地敷より三尺弐寸但折くぎ也外法
又分曲り四分也床壱床縁乃板ふちに打事もあり

是も三尺弐寸床高さ時より右の寸法と床縁高さ合て打

一釣舟の釘床乃おもてしりけ天井中程よりかけ角など
に打わ釘也

一床天井ハ壱列ふつくハ一枚板にして無地の縁を打かへ
天井也或ハ杉板あじろ桐乃まくり板に蒲張て古法
の通り也天井又利休天井高さ六尺弐寸天井九縁竹枕
縁ハ末也天井ハすゝけのまゝをふつくまかりて事也
古田氏天井縁に竹と杉小丸竹でそのまゝ打事也
重衆よりとて細さらしにて天井板九下包よし天
井九時に竹角或ハ板勿論御大人好みに桐の間通り
より板あじろの好み壱列にも好みあり色々様に好弐ハ

ゆきさ二寸八分九分三寸とこし也也
一板敷乃高さ中式畳居の上端とハ壱尺九寸高さ二寸又分之
一躙(にじり)口の高さ弐尺二寸幅弐尺
一敷しきの鴨居の厚さ九分幅よりて壱寸ニて 又壱寸弐分と
一躙揚(あげ)つと鴨居ともに敷居也戸板乃幅三寸八寸中板七寸戸
尻壱寸板と心得べし 厚さ壱分と
一同上乃竹連子内しやうじ也 恰(ころ)合見合ニ掛数寄次第
一数腰張乃高さ壱尺八寸弐分躙揚ル掛窓乃下ニ継結也
紙ハ墨流みるとも紙裏書其外西の内数寄ニて張り
立られ候ハ紙を用利休ハ紙子の入にしやうを付て
もちゆるとる事を好まるよし 又ハ壱両せんじ 染りとく

しやうじとんの紙ちハさくび紫ろ色紙よおし
つき合ちらし紙ハろくをおるよし
一大目乃高さ六尺弐寸ハ外の方也向ニ裏比時ハ中柱乃上又寸
とおく六尺七寸ニし 高くうちくとを付竹ともに竹釘
末跡見とも比又本打て女竹弐分ばかりにして竹の釘を
乃所を切也し 釘末比間より継て壱本へるかつがなく
かこ付る也 それ末乃ことてそれかしら比打まて表方
しろも打為分掛其上ニ赤板ニく屋○裏と打也茅葺(かやぶき)
の時ハそれんとおて備縄を付くハハの紙しかる也
一同大和ぬきさ乃時ハむすび縄ニてまくハよりも結あり
一大目の天井を数天井ニなく竹の色く掛数寄ニよ

すゑ此時ハつきさ上の窓をせぬ
一 大目畳ニて長さ四尺七寸三分内中柱より三尺壱寸五分
中柱の上壱尺五寸八分幅三尺壱寸五分
一 引竹の下ゆふる所弐尺二寸之引竹 厚さ九分幅
壱寸八分也 引竹は上に付るべしとかる也
一 曲柱面付壱寸八分四方弐尺弐寸上よりまげよ 但
天井際よりくハ又おそくへり色のあれごとし 但おもて
横にかゝりたる時ハまへとかとどうじうしろの
方より切めの所へくさびまくゆかめ所にすを出すや
大工に任もとんまんなり
一 中柱に袋掛釘ハ引竹の下端より三寸六分上にて

柱ハ其中色紙窓に向てつく打也 折釘 外のり
五分爪の長さ四分分獨鹿にて
一 風炉先の窓 鴨居内法高壱尺八寸八分幅壱尺五寸 下地窓
はすり也 角く丸くあり也 地敷居より七寸五分
なり 敷居三尺壱寸五分一倍に作る也 又あり也 此時ハ
ほそ立の竹りそてらむる 鴨居内三尺壱寸五分也
あし内にせうじ立 鴨居敷居樋角と一だいよ
しつかしせうじたる時ハあけさしよきよう也
外に掛る戸 壱尺付 夜會の時ハ雨戸立る紙を也
外ハいつもとざれるる也 此外の竹ハいつまでも定る也
一 色紙窓上下色紙を張すれ〇あハにツ掛をする上窓

長さ弐尺壱寸八分幅弐尺三寸八分

一 鴨居敷居厚さ九分宛大図此長さ一倍二通但一筋樋也

一 竹立厚さ九分せい壱寸四分

一 窓の其中横に一通有可立厚さ四方幅九分の木也

一 外の方に同窓にそりに竹又有也

一 障子壱本かり立てともに縦七本横二通壱列障子たし重ね但かりそて厚さ三分中八弐分

一 日下窓長さ壱尺八寸弐分幅壱尺四寸六分但下地窓かしくゆり出しハうちくりたにゆる又分宛角くとおりまたに

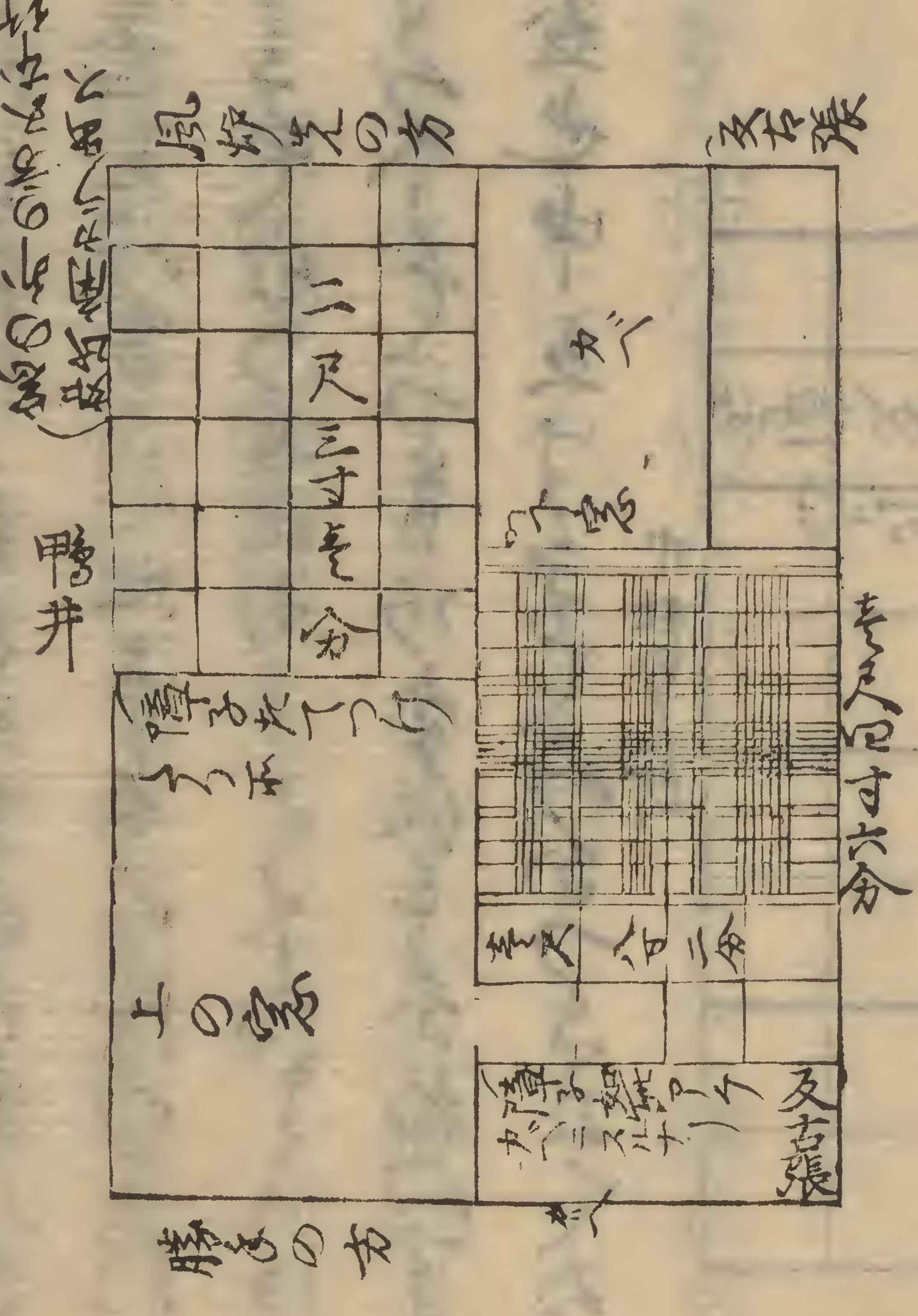
一 中柱に向へく竹此かりそて壱筋

一 向の方にうち壱尺三分かしく窓付窓の後壱尺七寸四方

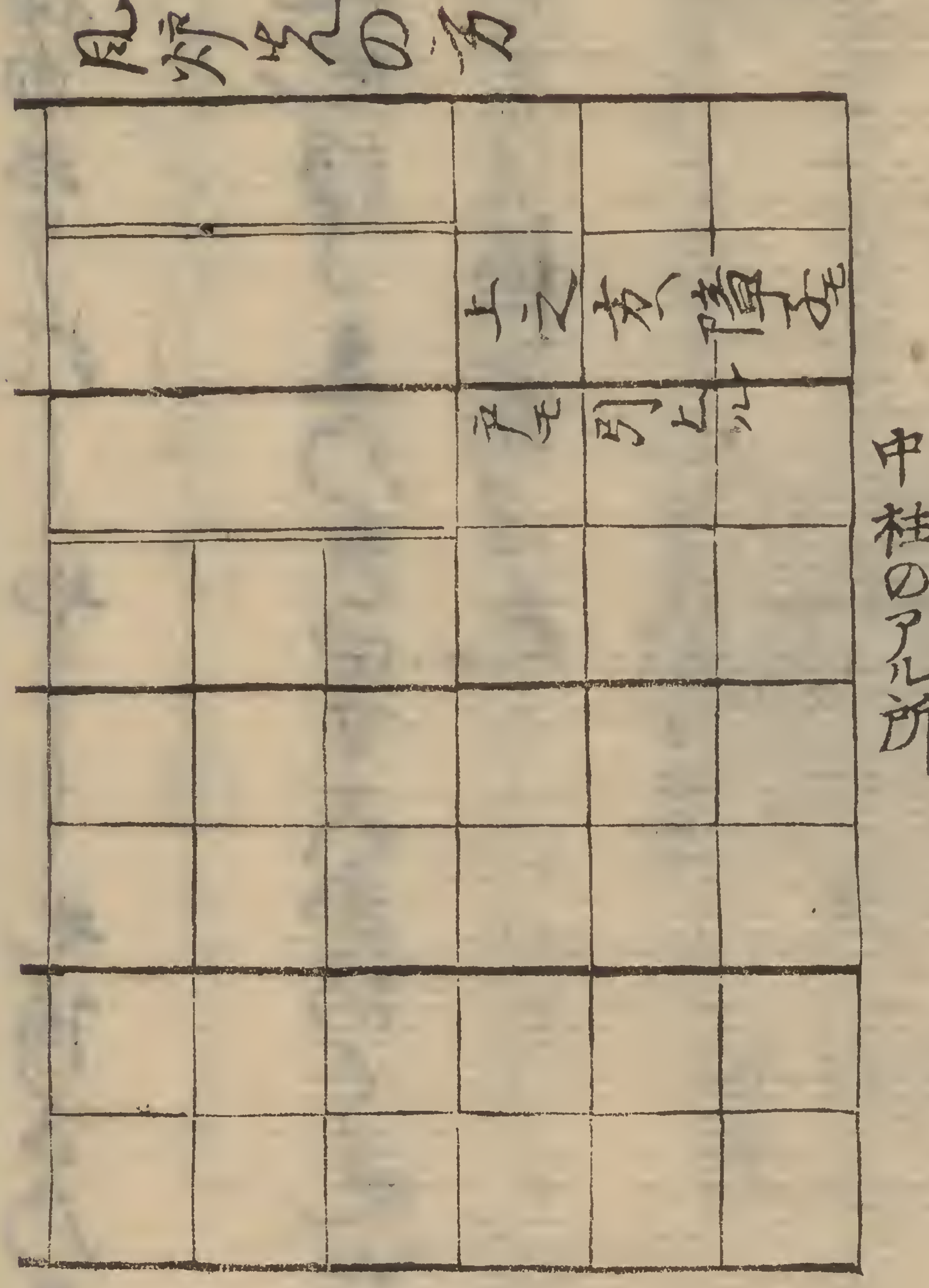
一 障子立四本横四本常此しやうし也障子の子弐分うちかく三分

一 弐尺七寸に一筋樋也但し立の方四寸又分かく也いりも切けそれに折り桟なし樋をりり也

色紙窓の図



一大目ノ方つきかけ窓竹、壁末又本の内窓乃内より壱本
見ル様よ障子ハ上乃方へ張ちう紙よ張らりより紙
表方よ樋をとりて水乃通路おしく下へおとし障子乃上
よ雨戸をびよづくしそつ貫乃字にち分程乃すきまハ
弐寸計アケ置也中立すぎてみかつき上てあるもとを



張也窓乃付所如此ちりちかも本式方也ちかきとも備る不自
由なれどおとの方まて付ル事ろき
一大目乃縁張ル高さ七寸五分但まよし無時ハ八寸弐分也
一板並之幅壱寸八分中柱乃下より向の板畳掛乃板並を付様同
前なり深
一角棚下棚壱尺八寸幅九寸但しくべきハより上棚壱尺四寸
幅壱尺八五分上下ともにくべへ五分宛乃ちぎちりむきつり
但打付ちりむき也ちりむきの幅五分也板乃厚さ四分
史桐板也上下棚の間六寸五分之
一同釣棚ニ下ハ同六分四方ハ木をすろ上ハ掘鎖木ハ竹也
ちりむきを五分乃内へ入る小口五分指置し竹也

と能く一束ゝかりの紙用大関ハ天井まて鈎角を

一茶道口のたかさ五尺弐寸幅弐尺二寸しやうじ下を美濃紙はりて張上を友吉（おうぐ）張ニ切り手内の方七ツめ張手此方六ツ目文字のことく又相わり切こむ也外の方ニ鴨居鴨井あるよし也

一鴨井敷居幅三寸弐分二寸六分ましく一ツ樋鴨井厚さ壱寸壱分ありしぶて厚さ壱寸内の方見付る面（ろ）弐寸六分

一炉ハ内九寸六分四方五徳（ごどん）ちかき壱寸深さ壱尺弐寸めくり此炉也

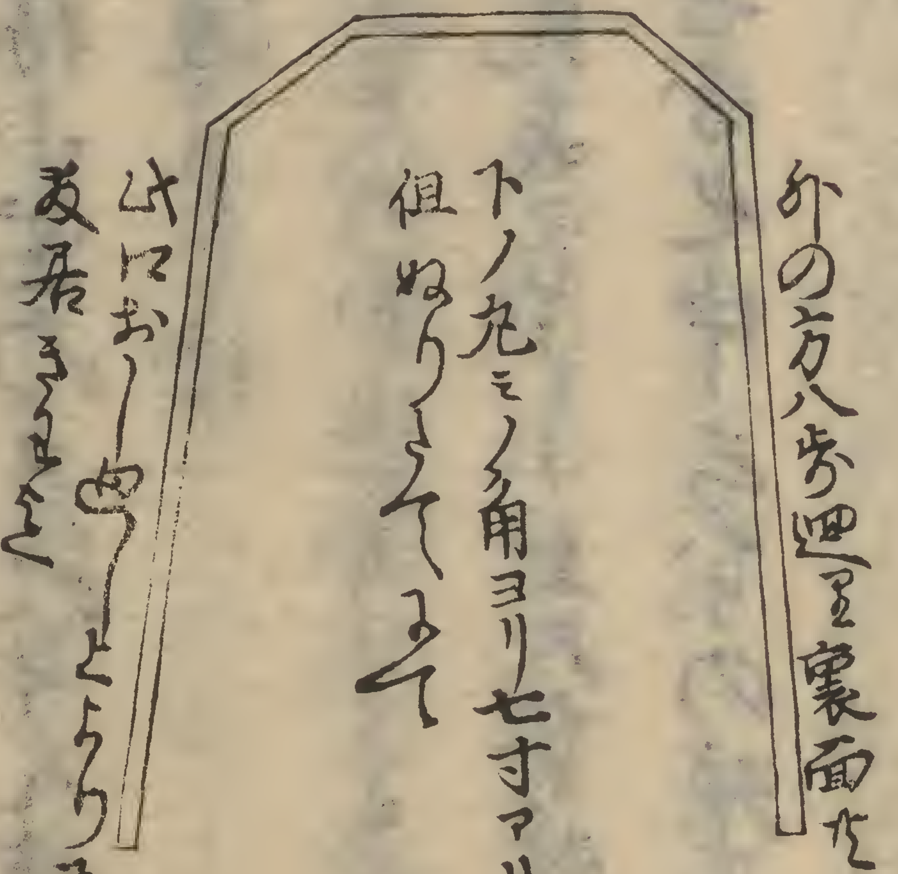
一囲炉裏縁指やう二ツわりて壱尺八寸四方外のり也厚さ壱寸弐分右弐寸二分厚さの内弐分ハからハめんあり

一通口の高さ三尺八寸五分ちかき弐尺たつとも此障子下ハ美濃紙はりて張上厚紙書かく表裏とも切門手下ちもろくめ張手の方ハ六ツめ

一壁のぬり様ハ書にあり不及塗ぬり無細知るまじき也

一上の丸ミ擂形にすいまく成るように少くても板にて此下九寸ほどを定切めこまいにてきよと付板入べきやうに付紙也

火燈口の図



一窓乃懸戸の事さんの有様小窓乃戸ハさん中壱通
中窓ハ中に弐通大窓ハ三通なるべし
一刀掛の棚長さ三尺壱寸幅壱尺六分但縁ともに長さ乃
三尺壱寸乃内にて壱寸七分宛両方へ出又ハ跡まで入る
角より両縁ハ長さ九分厚さ七分也中三本の跡まハ長さ
厚さ七分
一同下棚長さ弐尺三寸七分幅九寸四分跡まハ扠上棚と同前
角ハ末も同前也上下ハ棚る七寸鈎木七分と六分下ハ跡
木ハ角より六分おとし棚とする也
一刀懸乃下ハ敷居石或ハ三分先を則刀掛石といふ也板より
石ハ縁より上刀掛乃上棚まで弐尺三寸設けて石の次第を入て

其後刀掛をつる也
一踏揚の後石高さ去より上三寸五分蹴込乃板より二寸五分
除くす入出
一敷居乃石高さ去より壱寸五分
一槌鉢石の高さ家通面くわ宛相違ありて猶れ貴殿ゆへ
猶し也何も此書にあらハれ先古田氏よりて置石ハ角から
多くを嫌ふ秋その也高さハ壱寸五分遠別ハ石亀然れ
家代好まれてある高さハ壱寸也利休ハ石ハ高く常も
しきひくる石を好まるゝとうそう多く宗氏石也高さ壱
寸弐分又多石廣石の亀石ハ壱寸四分五分とりてすん
らまてくり何も石乃物数寄をけく是非といふ亀さ

掛なし其外よりも此三所は物数寄の内より
よろしき物をとられて能事とみゆる古喜入也
大くゝりは無石相は飛石も大ぶりなるよし飛石は
内のうりところどころを作様し又飛石は外ゝくと結ぶ方
又也十文字と石切の方に段々も高さも同事也又方が
し切見なかりし十文字宮内辻出其ねやうにと大ぶりに
をも能く見合する也短き路地通りは飛石多く遠くとのぞ
し永覚をも石通りで縮めぬおるべし外路地
かく石大小吟味でよし
一 腰かけ幅壱尺八寸又分織す弐方え壱列腰かけ高さ壱尺
つも壱尺八寸から石の高さ弐寸又分但長さ二ケ所又窓し

切石也其外ハ多く替たる也
一 腰かけ長さ幅六尺又ハ右又同内の上に方弐方腰掛六尺ゟ
ムかり又六尺腰かけ又六尺雪隠かたハ片羽よし又
羽口のとりげころさ六尺二寸かうだいよして但ち式ゟ
いたわかさるかみ物也外の方ハ廉れごとく作りよく
一 くゞりも幅弐尺弐寸長ケ二尺五寸ちよりも壱尺九寸上鴨居
あり是ハ数寄れら偶まで内ゟのとほりゆる也
一 内腰懸よりも客見の下地窓付古田氏ハ腰かけより
みる掛なり幅弐尺高さ壱尺五寸ゆかしたりするゝ
壱列ハくゞりも内より下地窓也
一 刀懸ハ縦もまた横に竹掛の釘長さ壱寸壱分小口弐分

丸く形どりして打也簾をかけて見ゆる下よりハ八寸
上までの所
一 踏石のものひらきしより其外路地けハ下より六尺宛也

雪隠乃寸法之事

一 竪○ハ本式大和ぶきに柱かけて
一 柱乃竹ふとさ弐寸七八分三寸まで栗之皮付又ハ松丸太
一 ちりハ所にて宮乃中竹下まで上まで五尺八寸なり
一 腰にゆり所にて戸口まで三寸まで三方十すり也それて上の方ハ
桁下まで入りす杉也
一 そうま竹也戸の上一方ハ五尺八寸より鴨居入るたる事
乃限めにハすびる戸口上簾かけ表上二方ハけしきて上貫也

しゝ也こまもいふ竹也表よりもくゝうびくれ
一 窓上より長さ五尺七寸よりかけり窓乃長さ五尺七寸そぐ
弐尺三寸外より窓乃中に竹の柱立ちらハ窓立
間五寸上下の窓之高五寸也
一 掛の内幅九寸深さ九寸長さ外尺へ弐寸
一 ほうりおとし丸く柱間し六寸五分四方深さ九寸
六寸あり又ハ松葉入れ上又秋乃その葉なども入る
一 塵落し乃内より竹箸弐本長さ九寸五分本四角
の上丸くけずりそ元一文字也本より三寸五分めに
節ある竹乃皮其保付を用る也四季乃
並合かざりも葉よりかわり

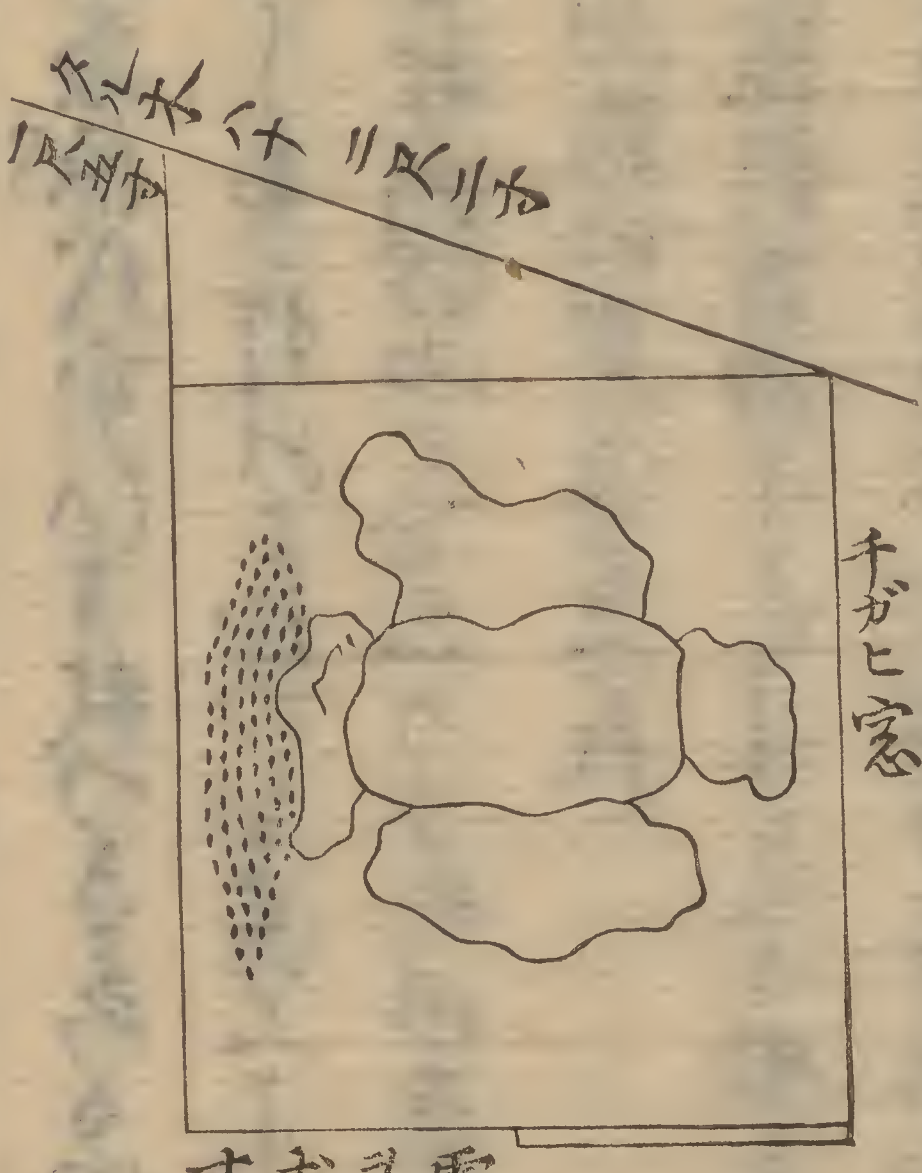
一 塵穴の桐手此石据べきと云も埒の内三尺也
一 同前の石此高さ六寸より七寸又分但此石ハ丸く大きなる
よりも亀石なきまでも也云ん如くしの石と云ふ
一 後の石ハ際より九寸高さ七寸より一寸又分也
一 戸此長四尺六寸ちかく弐尺弐寸
一 鴨居内法土より五尺八分寸
一 戸棧の一寸又古戸此詰め石より壱寸又分
一 鍔枝長さ二尺二寸厚さ七分幅壱寸但まれしそつてつけよ
一 縁板高さ九寸後の方壱尺八寸也
一 戸口ちも向角柱ちも弐尺めぐ竹を立箒かけ打候
一 ゆさ打掛帯の先よりも八寸ふとく打也但丸釘也

一 萱葺の雪隠ハ軒端めぐらし弐尺五寸の上弐尺向
かうし高さ六尺めぐり縁を付ん軒端の方客此見ゆる様
にして軒端の三六尺ゆる事ハ六尺つき戸の方窓の如く
くけ戸を掛る也又脇弐寸ひの杖つき立るや柱の薄
板竹しつる貫よりし角竹此ニ回りと其上より杉め板
張よりまんを打ぬいつくと志める也此雪隠莊の
雪隠りとく路地の樹の中より立る
一 莊雪隠ハ白貫石此割石ありく生く之りやみとくる内
しく事也下腹雪隠ハ濱砂と盛石雪隠かしくゐ
濱砂と盛附ハ下腹雪隠也
一 下腹雪隠ハ又尺又寸四方長ケ又尺又寸新下と二寸高信

也雪隠乃置板長さ三尺壱寸幅弐尺八分おとし口の長さ
壱尺七寸幅七寸くま板厚サ六分幅

一 雪隠乃戸たけ弐尺三寸長ケ四尺三寸釣所上くゝりも
五寸四分ほど申て釣

一 扨しして雪隠ハ腰縁よりつゞき雪隠一ツくやかさ



雪隠ノ内惣ノ下
ヲ小石ヲマゼテヌリ
土ニシテ坪ノ内九
寸何レモヌリニハス

ゝ雪隠一ツ下腹雪隠一ツ以上二ツ也此外ニ六席ニ此類有之
鏁乃間同し事

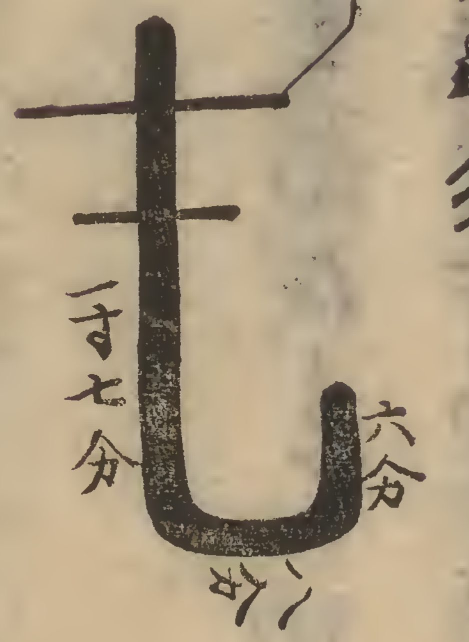
天井の高さ七尺五寸　床ハ数寄屋より同し

一 床框乃おとしり家地敷居より弐尺五寸

一 床前ハおとしかけ壱州鴨居よりて上へ入五分如此紙数
寄大工其細心得有り

一 天かぎ床の指渡し七分より其のなかさ一寸七分半曲りの
方ハ八分曲りの所六分折りざの長さ弐分

天井の板ニ如此くぎを指下への方ハ此二ツの
横ニ指ある釘上のハ天井の板の上下のハ天
井の板の下ニ指て板をはさみ留るなり



利休堂古寸法

一 長サ二尺　長ケ壱尺八寸五分

一 深サ一尺八寸　棚の高六寸より上に一重一枚板にて釣棚板
より一尺八寸前の方より八分勝手此方緞板に上より三寸下に竹
とくさを打て是紙にて張り極板かけ候

一 前戸二枚障子なり　高厚古書にて表裏張也
中に切りに西の方此端に付る後の方は板戸へ堂古の内へ
戸裏の方張にして二枚戸也わりけがありて鎖おろせ
掛にするなり也

古田氏堂古の寸法

一 長さ外法三尺六寸　長さ内のり一尺八寸五分　深サ一尺

三寸大同様へ押込也り縁見の西壱寸天井の方かう
立より六分角にて此下立に竹也前の戸裏板戸
いづれも利休堂古に同じ

一 内のちがひ大分風炉先の方長さ弐尺八寸ちがひ壱尺壱寸五分
勝手此方長さ壱尺五寸ちがひ同前風炉先の方棚天井
より六寸下て釣勝手の方天井より五寸下て釣
棚此方六分四方の釣木六分下へ角にかけ寸也後の方
より三分六分也棚を後の方へ寄て戸に一所に釣也作法
色付にしてすゝみん奇麗に拵べし

手水鉢まへ石寸法の事

一 まへ石より手水鉢の上ばらと弐尺五分但石によるべし

是長さ石乃寸法也 畢竟角ハともかくもくつぬき石と
手水石の高さ乃所 弐尺四寸五寸乃高

手水桶寸法の事

一 長九寸 指渡し内乃りも壱尺弐寸
一 木乃厚さ六分 輪三所也 縁向ニ置時ハ縁乃通り
すゑ一尺ニて 撫手に乗る桶と縁との間弐尺三寸五分
一 大人乃御手水ハ一人ニて弾 桶ニて湯を入る

手水掛板寸法

一 掛乃長さ一尺七寸 かけ乃さしわたし三寸長弐寸五分
板の厚さ一歩 板あり

簀子寸法

一 長ケ弐尺弐寸 長サ三尺 板ぐるり壱尺三寸五分上の方丸く
又奥行四寸 天井板幅壱尺三寸五分 裏乃高弐分丸く
下板厚さ壱寸六分 裏一寸弐分乃ちりとおしほぞ入る板の高さ
八分四方八分宛 安にまハし内一尺の板さしてあり

袋棚寸法

一 長さ弐尺六寸 天井板長さ弐尺五寸五分
一 板すそ弐尺四寸五分 透棚三乃高さと天井此高六寸五分
一 中棚板幅壱尺弐寸七分 下棚天井この高壱尺壱寸六分宛
水指を置ル上の棚との間壱尺壱寸七分
一 袋乃内法長六寸五分 柱の厚さ六歩四歩
一 柱三分宛内へ入くるなり 板の厚さ五分いつれも同前板ハ

弐尺六寸幅壱尺弐寸六分
一違棚乃高のすりしちぐ壱尺五分
一ちかひ上れ棚乃板厚さ四分宛 板高さ入べく
一袋乃戸板長さ壱尺壱寸宛
一長ケ六寸七分板ノ厚弐分丸手長サ四分さし渡し四分六角

栖棲棚乃寸法

一長ケ壱尺五寸八分内のり壱尺
一幅八寸七分宛四方下棚より上壱尺八分内のり
一中棚より天井迄高三寸八分内乃板迄ちかさ四分二分宛
入べく板より上中ノ棚板四方下板六分丸とる

同栖棲棚寸法

中棚のまう 如此

一長ケ壱尺五寸六分　天井長さ一尺二寸三分
一同幅八寸弐分　天井と中棚乃高四寸九分
一中棚と下ノ間九寸　縁板すりし物數寄次第也
板ノ厚三分宛 中棚ちぐ弐分宛
一同中棚乃ちぐ弐分宛
一下まつ宮まりし乃足かうとらうる縁板ハ二分入て之也

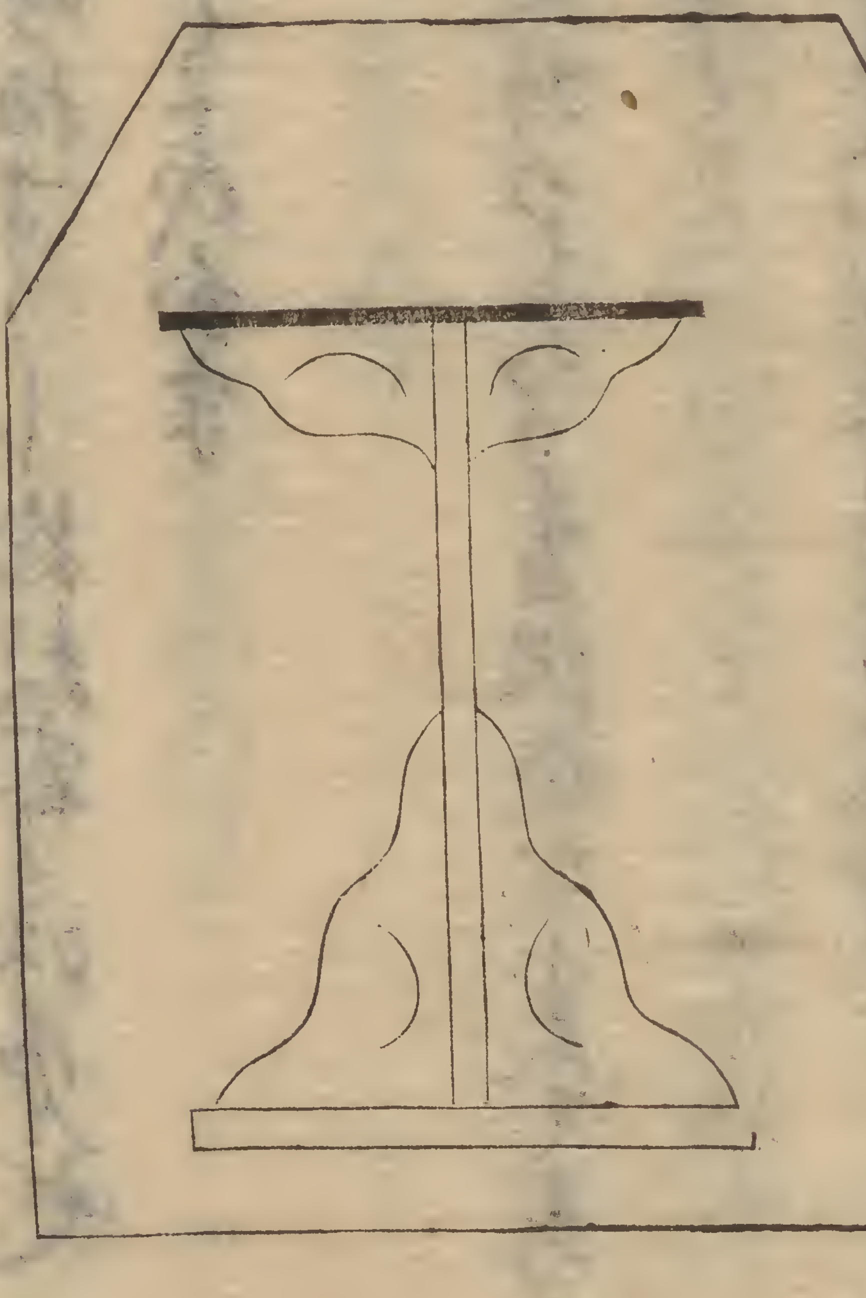
小及其寸法此事

一惣長ケ壱尺弐寸壱分より下乃板長さ壱尺弐寸
一同幅八寸六分 板乃ちかさ五分宛四方さちやうめん
一上の棚下のゟ内のり壱尺下ノ板と足板との壱寸壱分内法にて
一あし板乃ちぐ九分宛付也し上下の板厚さ四分足乃板

ろく三寸上下ノ板ハ又分乃ちらしをつる
一 柱乃面縁ニすりし 板あり上下ハすりし 板外ハ面

長板ノ寸法の事

一 長さ弐尺九寸
一 幅壱尺四寸
一 厚さ壱寸又分



鍍乃寸法

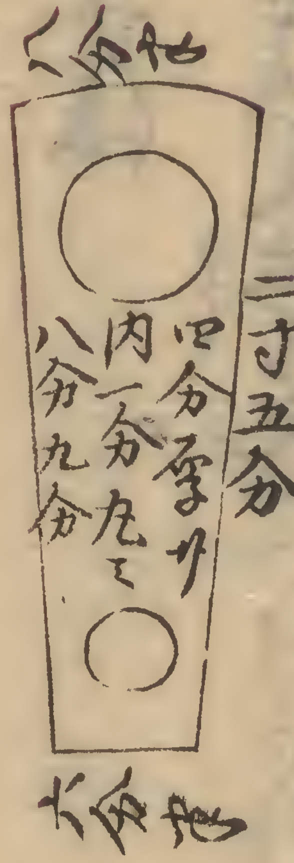
一 長サ一丈弐尺上天かさの所壱尺計 猶小かさくをしてよ
けりを此天うらにうくる也 下ハ少しかくさしくて一尺

てうをと文庫ニせうをめく之

自在寸法乃事

一 長さ八天井ノ次第也 炉縁より一尺弐寸あり竹乃切口
よりと節ニ九分 上緒乃穴まて壱寸同緒長さ一寸下
かぎ際乃緒まて一寸六分

雪隠箒寸法乃事



一 柄の長さ二尺八寸
一 装束の長サ四寸竹乃子皮ニて包但裏を表へして二所
緒上乃方壱寸又分中此間壱寸弐分下八分也但まとて
とらぬ事ノ三所結ぞ二分ノべし也

一 箒長さ六寸五分十くびぐるみにてよし是但賓すげさしふ
柄をすれ酒盃又酒樽と添て柄也
一 緒のはく所の穴まで五分
一 竹うり上結わり糸長さ六分

刀懸の掃又ハ脇箒の寸法

一 柄長さ三尺壱寸五分 壱寸まきりて巻之
一 令蘭にて包下四寸内二所 緒上の方弐寸
一 鴬よりハ長さ壱尺壱寸十たばにして内ハ乱也
真をハ四つ也

茶呂風炉寸法

一 さし渡し壱尺壱寸七分 長六寸五分半

一 内法九寸壱分半口の幅六寸一分内長ケ三寸八分縁七分八重
之挑よりも丸くのしく

羽箒寸法

一 羽の長五寸一分竹の皮と羽ハ長一分筆皮にて包所三寸
壱分緒竹にてのとく羽よりるも此寸法にて包不及にても
刃合てゆるやかに角棚の九寸あるを壺つきとる肝要

風炉先屏風の寸法

一 長さ弐尺内五分半六分の縁也縁ハぬりまりにてもすむ
一 長さ三尺壱寸五分又三尺又ハ弐尺九寸高次第臺子屏
風ハ長ケ尺八寸五分
右此屏風ハ表西よりしく絵をも書也色紙形張よろし

縁乃仕様末代まで能之道よく平らかにくりて打付り
すゑ也 臺子屏風も仕様ハかろくすへし 在家匠によ
り色々吟味有て本式ハなし

風炉小板寸法

一 板乃厚さ六分長さ九寸八分末口此方九寸五分末口よ竹にて
打つけ此端入(はしいり)いろく上黒ぬり也

遠州乃落板寸法

一 丸板大ニ二尺九寸四方丸く矢をすゑ也 角を先りてぬる事
又小ハ一尺ハ指渡し 縁ハ左右ぐりぐりとよりの床よ至所
十四め十三め

角落板寸法

一 長サ壱尺二寸五分 幅九寸五分 板厚さ三分半 床よ至所
二十一め十八め

竹輪寸法

一 長サ壱寸六分指渡しも同事 又ハ弐寸も良

茶巾乃寸法

一 利休ハ七寸布也
一 織部ハ六寸六分布也
一 遠州ハ五寸布也
右茶巾弐法ハ中川いかいハよろしく常に生ハ而もよし
よし布六寸有切而縁ぬせかいよするみハ五寸五分
おりて是をよろしとせん

茶帨寸法

一 布幅四方ニ切縁かゝりハ一寸五分ゝけハ切ハ四方ニ
かゝり茶巾布ゟゟニ八講布又ハ奈良布びられす

帨巾寸法

一 利休ハ長さ九寸幅ニしてハ壱尺

一 織部ハ長さ九寸幅ニして八寸七分

一 遠州ハ九寸五分幅八寸七分

水盤寸法

一 杉まうけ組してゝ指渡し五寸五分　長弐寸五分

懸棹寸法

一 長さ二尺四寸五分竹の太さ三寸五分口の四分本末口矢をつ

ぎにして竹きめのそとをりてましくふりて一文字切五分のけ
て庇をば明紫伐りて繍を付康乃綱柱りりけ也

長火箸寸法

一 長壱尺弐寸八分　まりしを竹れ子伐りて壱也　但みゃくさ
九分跡先壱分つゝ丸くまんちうの軒ゟりてまろく也
袋火箸ありこの也

炉火箸寸法

一 長さ八寸七分内四寸六分柄二分ぶりかめく針ゟりて壱柄
けづり様常の通り但本ハ桑よし

風炉火箸寸法

一 長さ九寸五分をうどより切但袋火箸ようして奈良ゟりて

おゐ又唐も亦同なりてかうかう乃さそくまうしろく
火箸一入よし

灰杓寸法

一 柄乃長さ五寸内壱寸弐分ハ身乃丸付ゟのまゝせすくい所
長さ弐寸壱分なり深めて同く壱寸八分ほど指先一文字
ならるめ寸多織ア形也と申これせにあるし
一 柄乃長さ四寸三分内四寸壱分竹使りて先ゟ所二所
かまゟ也但苦そりて先
一 すくい所乃指先之壱寸六分丸めて同くらい寸

底丸寸法

一 柄長さ壱尺壱寸五分 すくい所のわたり弐寸二分同長サ二寸壱分也

茶筅洗寸法

一 指渡し壱尺又ハ八寸より長弐寸五分板乃厚さ弐分板桐ニて

汁口寸法

一 高さ六寸壱分口乃指渡し六寸三分外のまゝ
一 板のあつさ弐分 手ハ長さ五寸外のり同手のくりハ弐寸五分
外より内よ壱分くりハちがい九分
一 末ハ厚サ七分八厘同幅七分
一 口乃長さ三寸五分口乃末幅壱寸四分
一 三ツあしの高さ四分蓋乃厚さ壱分半蓋ハ尺込五分

柄杓寸法

一 柄の長さ壱尺壱寸三分 かゞり指渡し弐寸五分

茶釜寸法

一長サ三寸五分内節より上下九分ともに弐分余

炭斗寸法

一箱口の指渡し七寸九分四方同そこ七寸三分四方　箱の長
サ四寸五厘　元手長サ四寸壱分内上より六分下に張木入弐分
木より六分四方但張木ハ六分宛元手箱の内に入て弐分箱
の縁に持たせて箱の内下に四方六寸　箱の板の厚サ弐分
弐厘底板同事也

数寄屋炉焼寸法

一八寸四方上弐分すぼり　六分宛四方板のふちに座のつけ
壱寸八分　弐分宛の板をつける也竹を二つに割

中の節所をとりて座に当る所少しすかし竹の節を残し
此方の板に釘打也くりもの竹ハ角違(まちがい)てする也
一路地炉焼ハ寸法同事上りて一枚板にて打付四方壱寸
つに四寸を入て粘土にて五六の方へさとうし
きるりをおとし上に板にて六分の竹をまぜ入ずつに
角違てめぐりきをとする也
一右くりそへ大竹を小口切にして長八分也　右器ハ焼土
器也路地炉焼ハ黒ぬりにする数寄屋炉焼ハ其地之

短檠(たんけい)寸法

一長壱尺六寸五分同四寸弐分箱戸ハ二寸三分さらす也　箱
長サ下七寸弐分同幅五寸九分

一 茶入乃厚さ弐分ほど 同蓋四分 同内一分八厘 八茶入乃そ
こまでくあいよ寸法
一 棹はちぶ壱寸壱分五厘のめんとりて
一 同厚サ六分 茶の内深サ二寸九分
一 くもて此輪を二寸 くりて乃庇指図し 九分七分ほど
おりさりもとて
一 厚サ一分のめんとりくりで指図し 弐寸八分外輪の
大キサ一分強くりくる乃庇指図し 六分四方哀り
りんごを棹穴乃長さ一寸三分ほど丸穴すりくべて幅八分

遠州 筒花入寸法

一 長さ八寸四分 節よりも下一寸七歩

一 懸鐶乃所よりも縁まで壱寸

釣瓶水指寸法

一 蓋乃厚さ弐分ほど 箱の厚さ三分ほど
一 取手の末丸幅九分長八分 長五寸七分蓋よりよ
一 上乃開き内のり六寸弐分ほど
一 釘打ツ乃方末ごろ七寸壱分
一 箱之内法五寸六分ほど
一 釘そぎハ六寸四分外のり
一 角より一分ありて釘打付べく
一 取手此くり形六歩四方 取手乃ホソ釘此方へ見ゆるなり
右釣瓶ハよくけづりて板うら釘打そ打付て置くべし

ゆるして用意ス

爰乃手桶寸法の事

一 真乃手桶上の指渡し外のり八寸四分

一 底指渡七寸三分　長ケ八寸八分

一 手かゝる迄弐寸二分幅一寸八分板の厚さ四分

一 横手乃長ケ八分手の厚さ八分

一 足の長弐分但三所ニ付るなり一寸

一 上乃輪長一寸八分下ハ長下乃輪ハ底ニあり

一 蓋の厚さ三分半　其方めん合也

一 長ケ八寸　下輪指渡し八寸

囲炉裏八徳寸法事

付り同縁ノ事
囲炉裏縁ハ正月
元ヨリ十三月迄日ニ

風炉八徳寸法

一 長ケ三寸八分　下輪指渡し七寸

路地げた寸法

一 厚さ一寸二分　長さ七寸二分半

一 廣さ二寸九分

一 はなをの方一寸弐分跡乃方二寸八分但し東乃切りえの所也上よりも一寸弐分下の二乃穴下よりも二寸也四方よ面をとる也

紹鴎茶杓寸法

一 長さ六寸三分　くいのなかさ三分七厘くいの本三分

一 中よりも柄先まで二分弐厘　節あり　同合曲也　但東く

木地縁四切ヶ
柾目ニ取り縁

茶杓并古用　長茶杓と云もあり

利休茶酌寸法

一長さ五寸五分半但はゝかいかいまて

一かいの長さ六寸かい本より節まて弐寸四分

一節より柄まて三寸壱分節よりかいの方真中二分半

節の上弐分柄一分九厘節とかいの所の厚さ五厘柄先

も同し　かい先よりかい本と五分半但五分よりかけん

先ありすれ

右筒の長さ六寸八分内三分半口の長さ

並別茶酌寸法

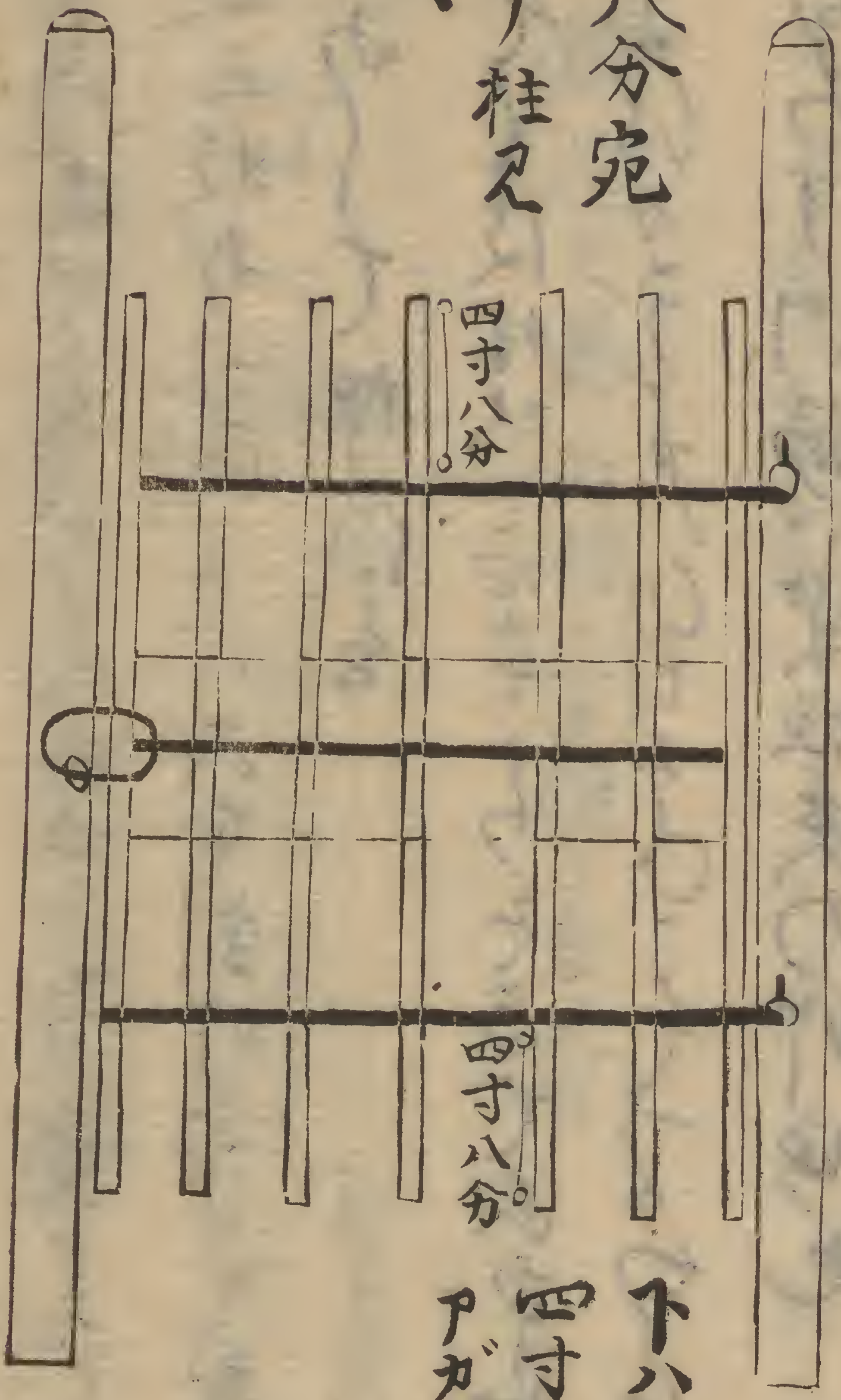
一長さ五寸八分・かい本より節と三寸五分先より曲りとも弐寸

三分　かい本よりかい先まて六分五厘かいの幅三分一厘て

かい本幅三分節のきはまて二分先まくちく一分八厘

右筒の長さ六寸七分内口分蓋

四寸八分宛
上ニテ柱ヱ
アマス



下ハ土ヨリ
四寸五分戸
アガル

さし戸の寸法并ニ図

一戸幅弐尺七寸五分　長三尺八寸五分内

一ゟ面て面弐寸九也し 平弐寸弐分 わきさらで九分厚さ
五分半但三所にあく
一板の打換ハ下の木口より口寸五分切さ上ハ貫より七五分
さげて板数三枚打也縦(たて)ハ竹又弐割竹にして打也但
弐本もさしめして押縁也
一門板ハ何にても皮付又ハ田舎ちわそぎて真中を一文字
に切さら紙にそふさう戸ひらき○そてつるやうにかけ○
ことに鎖おろす門鎖ハ実頬矢乃竹頬也

拍子木打様のこと

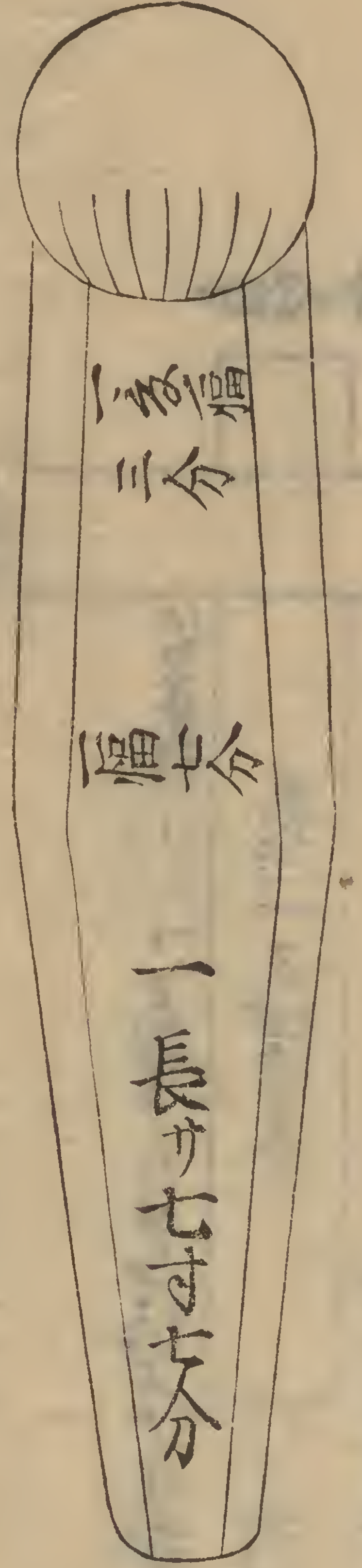
幅 三分

一	二	三	一	打様也

長サ八寸弐分
厚サ弐寸弐分

内の口より弐分
通しまわりて
張分ありて
かうし

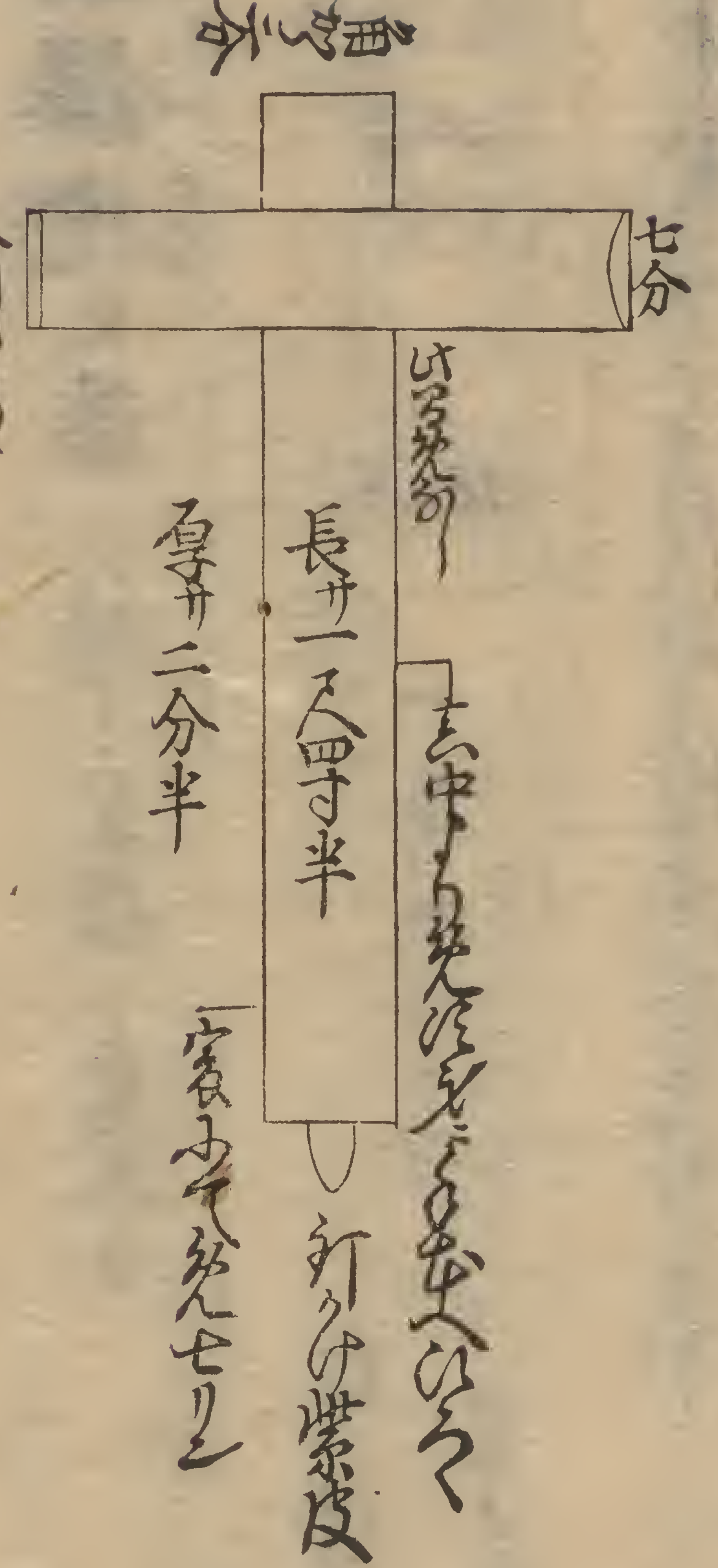
銅鑼(どら)抱(ばち)之図 白檀ヵ黒檀ヵ桑木ヵ



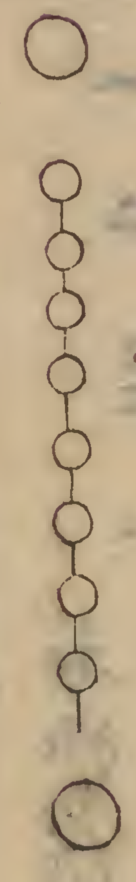
打ちかけの皮 弐寸五分

本末八角にして角のかど何も丸く
の方ありて丸くあてとり ○ ○ ○。○ 打様也数

喚鐘の撞木の図

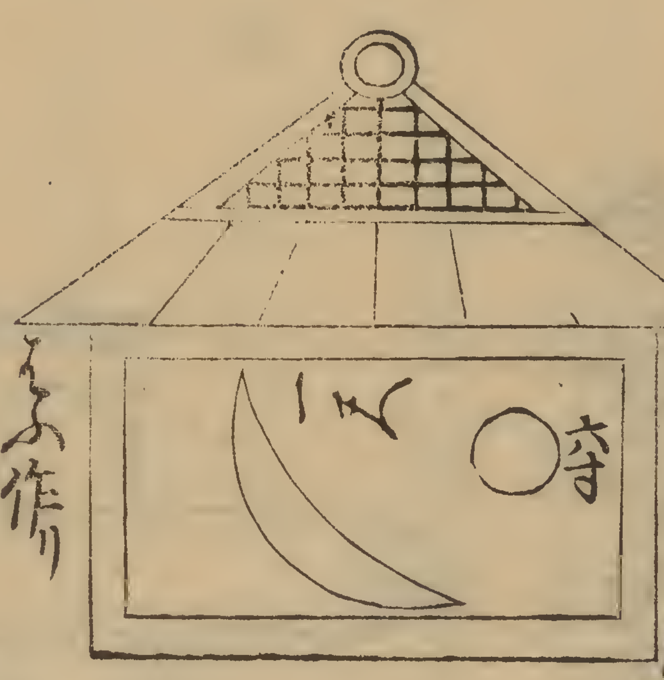


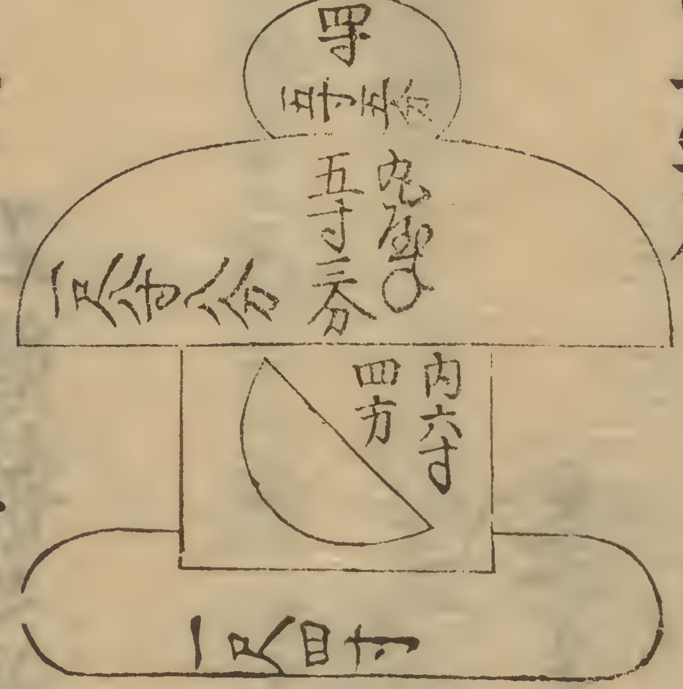
一喚鐘堂にて二階門を路次として二階にて打ならし
宗匠もあり路次露地へ入るなり



喚鐘の打様の数

石燈籠之畫寸法





茶乃全書巻三終

石燈籠之事

一 昼ハかうけも障子を不出 常の如く窓二ツ宛て下四方 焼きハ五寸又ハ七寸程

一 月ハ夜ニハ七寸程より九寸程ゟまで入れ候て子細ハ張て用ふべき也